

科目名 (英 訳)	S 身体のリベラルアーツ The theory and practice of body-movement	開講学期 曜日・時限	金曜 5時限
対象学年	1、2年生	単位数	1 単位
受講資格		募集人数	10 名 程度
担当教員	山本敦久		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

この授業では、デジタル社会の進展に伴って生じている私たちの身体と自己の関係の変容、自己と他者の関係の変容に着眼し、コミュニケーションや自己表現に欠くことのできない媒体である身体をひとつの「メディア」として捉える視点から身体の営みを探り、他者とともに生きるための「身体の知」の獲得をめざす。それは健康で自由な自己表現を求めて生きる人間の原点を問い直す作業であり、同時に他者との共生への扉を開くことでもある。授業の形式は、学期前半は、講義形式と実習形式を繰り返していく。学期後半には、学生が主体となって問題提起を行い、ディスカッションをしていく。

●授業の目的 (Primary goal)

この授業の狙いは、学生が自らメディアとしての「身体」を意識し、「私」を掘り下げていくリフレクティブメディアとしての「身体」と、他者との関係づくりに開かれたコミュニケーションメディアとしての「身体」のありようを具体的に考えていくことにある。医療の現場は、生身の人間との対峙の現場である。したがって、「私」を他者に開き、また「私」を深く洞察・反省することへの糸口を掴んでほしい。

●到達目標 (Objectives)

授業は、大きく分けて「1. 身体の文化史 (講義)」、「2. 現代社会の身体変容 (講義)」、「3. 自己の身体への気づき (実習)」、「4. 他者とのコミュニケーション (実習)」の4つのカテゴリーから構成されている。「1. 身体の文化史」では、身体を文化として捉え、身体が他者や社会と私を結ぶメディアであることを社会学や哲学分野の知見を参照して理論的に確認する。「2. 現代社会の身体変容 (講義)」では、デジタル社会の中で、私たちの身体にどのような変化が起きているのかを具体的に考えていく。ここでは、社会学やメディア論、文化研究 (アニメ論、サイボーグ論)などを参照して、理解を深めていく。「3. 自己の身体への気づき (実習)」、「4. 他者とのコミュニケーション (実習)」では、実際に自分の身体を動かし、様々な身体メソッドを通じて「身体の知」を学び、発見し、獲得していく。

●授業計画 (Schedule)

第1回：ガイダンス  
第2回：身体知を考える  
第3回：身体のレッスン (身体への気づき1)  
第4回：身体文化史1  
第5回：身体のレッスン (身体への気づき2)  
第6回：身体文化史2  
第7回：身体のレッスン (他者とのコミュニケーション1)  
第8回：現代社会の身体変容1  
第9回：現代社会の身体変容2  
第10回：身体のレッスン (他者とのコミュニケーション2)  
第11回：ディスカッション  
第12回：ディスカッション  
第13回：ディスカッション  
第14回：まとめ

●成績評価の方法 (Grading scheme)

数回の小レポート (50%)、授業への参画点 (20%)、出席点 (30%)

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

授業ごとに適宜、指示する。